

## 【44】グローバルCOEプログラム(拡充)

平成20年度概算要求額: 46,958百万円

(平成19年度予算額: 15,758百万円)

事業開始年度: 平成19年度

事業達成年度: 平成23年度

### 主管課

高等教育局大学振興課 (課長: 中岡 司)

### 関係課

### 事業の概要

我が国の大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、「21世紀COEプログラム」の成果(大学改革・教育・研究)を踏まえ、これまでの基本的な考え方を継承し、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援することによって、国際競争力のある大学づくりを推進する。

平成20年度は、当初計画に沿って60拠点程度を採択し、平成19年度採択拠点分(63拠点)とあわせて120拠点程度を支援するとともに、博士課程学生への経済的支援の更なる充実と国内外の大学・機関との連携強化を図るために1拠点当たりの支援の重点化を図る。

### 必要性

我が国の大学が、世界トップレベルの大学と伍して教育及び研究活動を行っていくためには、第三者評価に基づく競争原理により競争的環境を一層醸成し、国公私立大学を通じた大学間の競い合いがより活発に行われることが重要であることから、大学の構造改革の一環として、平成14年度から、世界的な研究教育拠点の形成を重点的に支援し、もって国際競争力のある大学づくりを目指す「21世紀COEプログラム」を実施してきたところである。

「21世紀COEプログラム」の成果として、大学改革の推進、優れた若手研究者の養成、新たな学問分野の開拓や研究水準の向上などが図られてきたが、知識基盤社会、グローバル化の進展のなかで、国際的に第一級の力量をもつ研究者の育成は益々その重要性を増しており、「新時代の大学院教育(中央教育審議会答申)」や「第3期科学技術基本計画」においても、「21世紀COEプログラム」をより充実・発展させた形での国際的に卓越した教育研究拠点に対して引き続き支援を行っていくことの必要性が指摘されている。

また、国際的に卓越した教育研究拠点の形成については、「教育再生会議-第二次報告-」、「イノベーション25」、「成長力加速プログラム」、「経済成長戦略大綱」、「平成20年度の科学技術に関する予算等の資源配分方針」、さらに「経済財政改革の基本方針2007」においても示されており、まさに本事業を通じて世界的な教育研究拠点の形成を加速していくことの重要性が指摘されているところである。

これらを踏まえ、現在の「グローバルCOEプログラム」における1拠点当たりの充足率(約56%)の向上などにより、博士課程学生への経済的支援の更なる充実や国内外の大学・機関との連携強化を含め国際的に卓越した教育研究拠点に対する更なる重点的支援を図ることが必要不可欠である。

(本事業に係る審議会からの提言等)

- ・ 「新時代の大学院教育 - 国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて - 」  
(平成17年9月5日中央教育審議会答申)
- ・ 「第3期科学技術基本計画」(平成18年3月28日閣議決定)
- ・ 「大学院教育振興施策要綱」(平成18年3月30日文部科学省)
- ・ 「成長力加速プログラム」(平成19年4月25日経済財政諮問会議)
- ・ 「経済成長戦略大綱」(平成19年5月28日経済財政諮問会議へ報告)
- ・ 「教育再生会議 - 第二次報告 - 」(平成19年6月1日教育再生会議)
- ・ 「イノベーション25」(平成19年6月1日閣議決定)
- ・ 「平成20年度の科学技術に関する予算等の資源配分方針」(平成19年6月14日総合科学技術会議)
- ・ 「経済財政改革の基本方針2007」(平成19年6月19日閣議決定)

## 効率性

国公立大学を通じ、すべての学問分野を範囲として、世界最高水準の卓越した教育研究の実施が期待される拠点を平成19年度～23年度までの5年間で150拠点程度公募・採択することにより、競争的な環境の整備を促進し、重点的支援による資源配分の効率化が図られるほか、採択された拠点に対して毎年5千万円～5億円程度の財政支援を継続して行うことにより、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を推進する。

## 有効性

(施策目標)

施策目標3-1 大学などにおける教育研究の質の向上

学長を中心とした全学的観点からの大学づくりなど大学改革の推進、優れた研究者養成機能の強化、独創的・先端的研究の水準の向上といった本事業における効果をあげることにより、卓越した国際的教育研究拠点の実施が期待される拠点への重点的支援が図られ、ひいては国際競争力ある世界最高水準の大学づくりの推進が期待される。

## 公平性、優先性

本事業は、国公立大学における大学院(博士課程)レベルの専攻等を対象(他の大学等と連携した取組も対象)とし、すべての学問分野を範囲としており、日本学術振興会を中心に運営される専門家、有識者からなるグローバルCOEプログラム委員会において、公平・公正な第三者評価を実施する。

また、「新時代の大学院教育(中央教育審議会答申)」や「第3期科学技術基本計画」、また教育再生会議等各種会議における提言等において本事業の必要性が指摘されているところであり、国が優先的かつ重点的に実施すべき施策である。

## 18年度実績評価結果との関係

実績評価「3-1-3」の今後の課題及び政策への反映方針には、「グローバルCOEプログラム」において、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、国際競争力のある大学づくりを推進するとされている。

## 広報計画

採択拠点の概要(冊子体)をすべての国公立大学に配布及びホームページへの記載をするなど、一般国民、特に国内外の大学関係者に広く情報提供することを通じて、我が国の大学の教育研究活動の理解の増進を図る。

## 備考

特になし

# グローバルCOEプログラム

～世界的な卓越した教育研究拠点の形成～

平成20年度概算要求額 470億円  
(平成19年度予算額 158億円)

## 趣旨・概要

「21世紀COEプログラム」の成果(大学改革・教育・研究)を踏まえ、

これまでの基本的な考え方を継承しつつ、さらに支援を充実し、飛躍的な発展を目指す

中教審答申(「我が国の高等教育の将来像」(平成17年1月)、「新時代の大学院教育」(平成17年9月))を踏まえた大学改革を推進  
国際的に卓越した教育研究拠点をより重点的に支援

・274拠点(21COE拠点数) 150拠点程度(国内外の大学等と連携した拠点形成も可)

・支援規模: 5千万～5億円/年、間接経費を30%措置

全分野で新たに公募(新たな学問的ニーズに対応するため、学際・複合・新領域については、毎年度公募)

博士課程学生に対する経済的支援や、若手研究者が自立して活躍できる機会を与えるなど、若手研究者がその能力を十分に発揮できるような環境整備を促進

日本学術振興会を中心に運営される「グローバルCOEプログラム委員会」(委員長:野依良治)において公平・公正な第三者審査・評価を実施。国際競争力を評価するための審査・評価体制の強化(外国人レフェリーによる審査を実施)

## 20年度概算要求

博士課程学生への経済的支援のさらなる拡充を図るため、1拠点当たりの支援をより重点化する。

世界的な卓越した教育研究拠点の形成を加速

【経済財政基本方針2007】

平成20年度から、世界最高水準の大学院形成、優れた大学院生への経済的支援を拡充する。

## 【採択分野】

14年度 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24...

( )内採択拠点数  
生命科学(28)  
化学・材料科学(21)  
情報・電気・電子(20)  
人文科学(20)  
医学系(35)  
数学・物理学・地球科学(24)  
機械・土木・建築・その他工学(23)  
社会科学(26)

学際・複合・新領域  
(14年度:24、15年度:25)  
革新的な学術分野(28)

各分野毎に10～15拠点程度を採択

平成23年度まで学際・複合・新領域を毎年公募

274拠点(21COE採択拠点) → 150拠点程度(グローバルCOE)

## 19年度採択実績

- 採択分野:【生命科学】、【化学・材料科学】、【情報・電気・電子】、【人文科学】、【学際・複合・新領域】の5分野
- 採択件数:63件(28大学)[申請件数:281件(111大学)]

## 20年度公募予定

- 公募分野:【医学系】、【数学・物理学・地球科学】、【機械・土木・建築・その他工学】、【社会科学】、【学際・複合・新領域】の5分野
- 採択予定件数:60件程度